

子宮頸がん予防啓発プロジェクト」設立総会

日時：2021年12月6日

会場：参議院議員会館 地下1階 107号室

### 参加メンバーのコメント



#### ◇INES 代表 朝井淳太

「国民に分かりやすい情報を提供するとともに、啓発につながる提言を取りまとめる方針。自民党の「HPV ワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟」（議連）との連携や、シンポジウムの開催、自治体への働き掛けなどにも取り組んでいきたい」

#### ◇INES 理事長 梅田一郎

「HPV ワクチンの積極的勧奨再開やキャッチアップ接種実施の決定は、『前が少し見えてきた』ことを示している。このプロジェクトが国民的な取り組みとなって、若者たちの明るい未来に貢献できるように頑張っていきたい」

#### ◇日本医師会名誉会長 横倉義武氏

「日本医師会では、HPV ワクチンの積極的勧奨が差し控えられた後、診療体制の整備や接種後に生じた症状を診療する際の手引き作りなどに取り組んできた。今回の積極的勧奨再開は子宮頸がんで苦しんでいる方に対する大きな朗報になるだろう。ワクチンで感染が予防され、苦しむ人が少なくなり、若い女性が明るい生活を送れるような余裕を作れることを願っている」

#### ◇参議院議員 三原じゅん子氏（自民党「HPV ワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟」幹事長）

「まず積極的勧奨を再開するまでに8年もかかったことをお詫びしなければならない。今後、国民への副反応などに関する情報提供が極めて重要になる。大事なのは同じことを繰り返さないこと。ワクチン接種で誰にも副反応が出ないことはあり得ない。その時にマスメディアの皆さんがどう報じるかが大変重要。そのために議連でメディアの方々向けの勉強会を開催する予定だ」

#### ◇久留米大特命教授 佐藤敏信氏（元厚生労働省健康局長）

「積極的勧奨の差し控えが継続した最大の理由は HPV ワクチンの効果がはっきりしなかったこ

とだったが、スウェーデン、英国、米国で相次いで論文が発表され、ワクチンのがんを防ぐ効果が明らかになり、ここ数か月で世の中は大きく変わった。科学的な情勢が大きく変化してきている。科学的根拠に基づき、行政、政治を遂行するという意味でも、大変良い時期に来たのではないか」

◇産婦人科医 高橋幸子氏（HPV ワクチン for Me 呼びかけ人）・・・ビデオ参加

「HPV ワクチン接種機会を逃した女性にとって、キャッチアップ接種は再チャンスとなる大事な機会。ワクチンの接種が選択しやすくなることで多くの女性の命が救われる。また男性への定期接種化や、より効果の高い9価ワクチンの定期接種化も実現させたい」

◇津田塾大学総合政策学部学生 江連千佳氏（株式会社 Essay 代表取締役社長）

「私は2000年生まれで、無料接種の機会を逃した世代。後から親の援助を得て自費でHPVワクチンを接種した。当事者にとっては隣にいる友人の命が失われてしまうかもしれない切迫した状況なので、多くの人を救うためにも、キャッチアップ接種の対象範囲は9学年にしてほしい。またこの議論の中に私たちのような当事者も入れて政策を作ってほしい」

◇サントリーホールディングス 新浪剛史社長・・・ビデオ参加

「産業界としても、HPV ワクチンのキャッチアップ接種実施への進展・積極的勧奨の再開を歓迎する。積極的勧奨の差し控えで接種機会を逸した女性に対するキャッチアップ接種の徹底と、科学的かつ正確な情報提供、そして教育の徹底で接種率を向上させることが特に重要だ。女性の健康と活躍に繋がる啓発・教育活動に一層貢献していきたい。」